

# 国鉄労働運動解体の尖兵

# 三塚委員会の本音



82,4,13

No. 1017

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六八巻) 日刊労働千葉 七二〇七

## 自民党・国鉄再建小委員会 「6月答申」への反動的布石!!

\*\*\*\*\*

ついに本音を吐いた「自民党・国鉄再建小委員会(三塚委員長)」を、怒りをもって弾劾せよ! 82春闘は、まさに今、決戦段階に突入している。この時期に合わせて、反動「三塚委員会」は、国鉄労働者から一切の闘争力をぬき去り、労働組合の根幹をうちくたくたのために、超反動的な、いわゆる「三塚試案」を声高に発表した。  
去る四月十一日に新聞発表された、この「三塚試案」こそ、この間の支配者の側からことさらにまき起こされてきた「ヤミ・カラ・国賊」キャンペーン!! 国鉄労働運動解体攻撃の本性であり目的にはかならない。  
怒りも新たに、全ての国鉄労働者は総決起し、この反動に敢然と対決し、自らの権利と闘いを守り、労働組合の組織と理念を断固守り強化しなければならぬ。

\*\*\*\*\*

「スト参加者は解雇にせよ」「厳罰主義こそ国鉄再建の道」と絶叫する超反動!! 三塚

発表された「三塚試案」なるものは、「国鉄の職場の荒廃」を救う道は、「職場規律の確立」「厳罰主義の徹底化」「労働側との対決」以外にありえない、として、

「①管理体制の強化②違法スト参加者の解雇処分③現場協議制の廃止④ヤミ協定、悪慣行の無効宣言⑤昇給協定・昇給基準の見直し⑥管理運営事項の団体交渉からの除外⑦兼職職員の禁止⑧二百億円裁判の促進」など十五項目。」

をあげている。

特に、その中で「処分問題」に触れて、その反動の本音をさらけ出している。すなわち、「①違法スト参加者は解雇処分、②ビラ貼り、落書きなども戒告以上の処分、③弁明・弁護制度は集团的違法行為(組合活動のことだ!)は適用しないよう制度改正を図る」と厳罰主義を徹底化する」と述べている。

また「現場協議制」について、「ヤミ協定、悪慣行の温床になり、現場管理者の権限を越えた交渉が行われているから、廃止とせよ」とし、また「二百億円損賠」裁判の反動結論を早く出させて、「今後のストに対しても損賠請求をおこすべきだ」と煽りたてているのである。

全ての皆さん。彼らの狙っていることは、国鉄労働運動を解体し、労働組合を解体し、ストを絶滅するための「攻撃のための攻撃」であることは、あまりにもはっきりしているではないか。こんな攻撃に対して、一片の妥協も、屈服もありませんよ。粉碎するのみではないか。

「スト返上」「働こう運動」で、この攻撃に屈服する!! 指導部!! を打倒し、総決起しよう

「国鉄労働者」「国賊」「国鉄の労使関係が荒廃している」、等々のキャンペーンは、明らかに、戦時体制思想づくりを狙った攻撃の質をもっている。「国家にとって、国賊である」という論理は、すなわち「労働者は国家の為に死ぬ」ということを言っているのだ。「労使協調がなく、職場の労使関係が荒廃している」と言うがこれは当然の事である。支配階級と労働者階級は日々闘いである。そして非和解であり、非妥協である。支配者たちが「荒廃している」となげいている職場こそ、実は、われわれ国鉄労働者のすぐれた闘いの拠点そのものではないか。動労「本部」革マル反動分子のように、とりまく情勢が厳しいときは、当局に身をすり寄せ、当局にとって優等生になろうということは、すでにその瞬間に労働者としての死を、敗北を自ら宣言するものである。「国を守れ」「国鉄を守れ」という支配者の号令に、

今、屈服することは、国鉄労働運動の戦闘的伝統、すなわち、幾多の厳しい闘いを通して、諸先輩とわれわれが犠牲を払いながら闘い通ってきたものをすべて返上することにはかならない。こんなことは断じてやってはならない。つまり労働運動はすべての階級闘争のほかの何ものでもないのだから、労働者である限り、支配階級打倒まで永遠の闘いである。すべての皆さん。これが、約二ヶ月にわたってマスコミを総動員して、国鉄労働者にかげられてきた、「国鉄労働者」「国賊」攻撃の本音である。

当局の管理下の組合、組合運動、これは日本労働運動の歴史がそうであったように、常に日本の支配者階級が侵略戦争にうって出る準備としての、産業報国会化攻撃そのものである。われわれは決戦段階に突入した82春闘の前段で出された「三塚試案」を徹底的に断罪し粉碎し、さらに力強く闘いぬいていこう。

### 違法ストは解雇

4/14 日刊労働千葉  
国鉄改革試案 現場管理権強めよ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!